

学術会議問題「法人化論」によせて 歴史の視点から

隠岐さや香

東京大学大学院教育学研究科

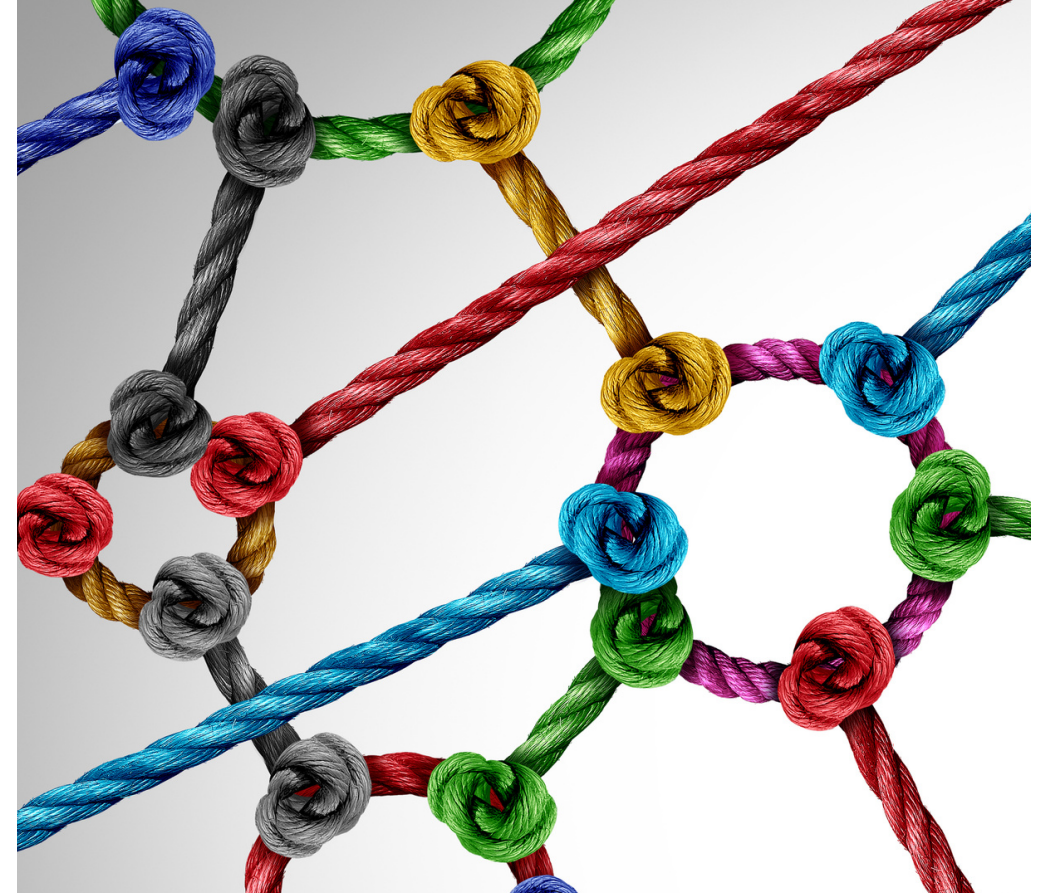
2024年3月4日

国際学術会議（International Science Council）の声名 （2023年12月15日）

科学、医学、工学の学術業績に基づくアカデミーは、政府、公益団体、一般市民のための、国内的および国際的な助言システムの基本的な構成要素である。アカデミーの重要な基盤は、政治的、商業的、その他の既得権益からの独立性である。様々な理由から、すべてのアカデミーが政策立案者や一般市民に対して不偏な助言を提供する役割を果たそうとしたり、あるいはその能力を有しているわけではない。

しかしながら、科学外交における各国アカデミーの活動的で積極的な役割を支援する2つの世界的な科学組織として、ISCとIAPは、**各国アカデミーの自治に対する国家の干渉が強まる世界的な傾向に深い懸念を抱いている。**

<https://council.science/current/news/joint-isc-iap-statement-academies/>



International
Science Council
The global voice for science

iap
SCIENCE
HEALTH
POLICY
the interacademy partnership

**Statement on threats to the autonomy
of academies of science
as mechanisms for science advice**



国際学術会議（International Science Council）の声名 （2023年12月15日）

このような干渉は、例えば、**構成員の選考プロセスに影響を与えたり、アカデミーの科学的助言の独立性を損なったりしようとする試みを通じて現れている。**科学的問題の政治化、科学的証拠の抹消や歪曲、自由なコミュニケーションや表現の制限、研究テーマの選択の制限、資金調達の制約などによって、社会の意思決定を支援する科学の価値や信頼が損なわれている。

<https://council.science/current/news/joint-isc-iap-statement-academies/>

国際社会からは国民目線の学術会議なんて求められていない



International
Science Council
The global voice for science

iap
SCIENCE
HEALTH
POLICY
the interacademy partnership

**Statement on threats to the autonomy
of academies of science
as mechanisms for science advice**

参考 : *A contemporary perspective on the free and responsible practice of science in the 21st century* (2021)

国際学術会議 (isc) は、自然科学および社会科学の両分野を統合した唯一の非営利国際組織であり、約40の国際的な学術組織および約140の各国および地域の学術団体が加盟している。

In protecting researchers, research responsible organizations must:

- Promote scientific freedom and the practice of science through legislation and culture;
- Support efforts made by scientists to address structural and systemic challenges to scientific freedom, and to advance responsible research within their institution;
- Support the professional development of researchers;
- **Defend institutional autonomy from external influence;** and
Protect staff from coercion, threats and pressures, including from political, religious and commercial interests.

DOI: 10.24948/2021.12



A CONTEMPORARY PERSPECTIVE ON THE FREE AND RESPONSIBLE PRACTICE OF SCIENCE IN THE 21ST CENTURY

Executive summary of the Discussion Paper of the International Science Council's Committee for Freedom and Responsibility in Science

December 2021

「学問の自由度指数」 (AFI) によると

2022年の学問の自由度指数 (AFI) のデータ分析はエアランゲン-ニュルンベルク政治学研究所とヨーテボリ大学の多様性民主主義 (V-Dem) 研究所によって作成

- 日本は0.58だが、
下から30-40%の
集団に入っている

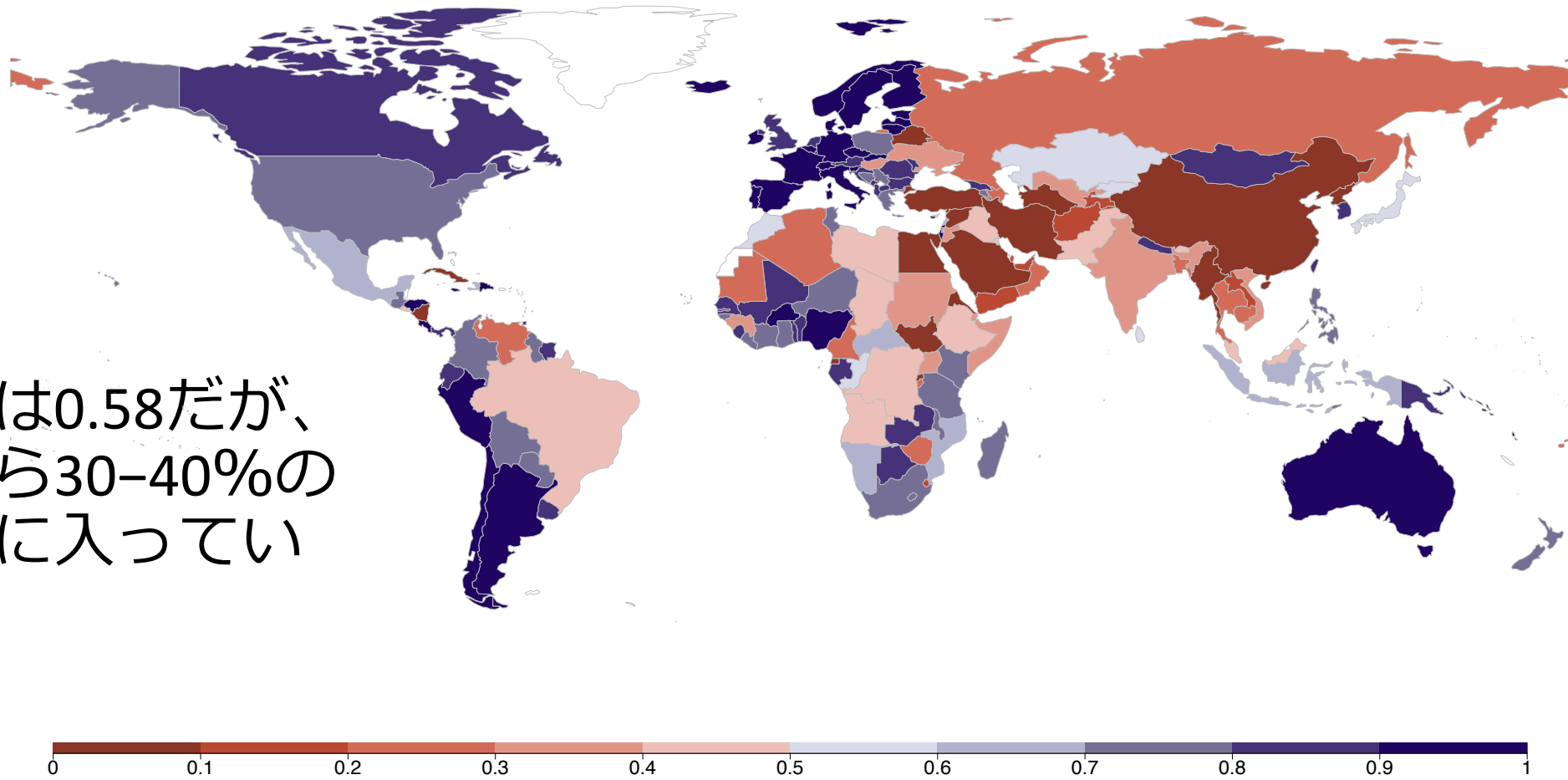
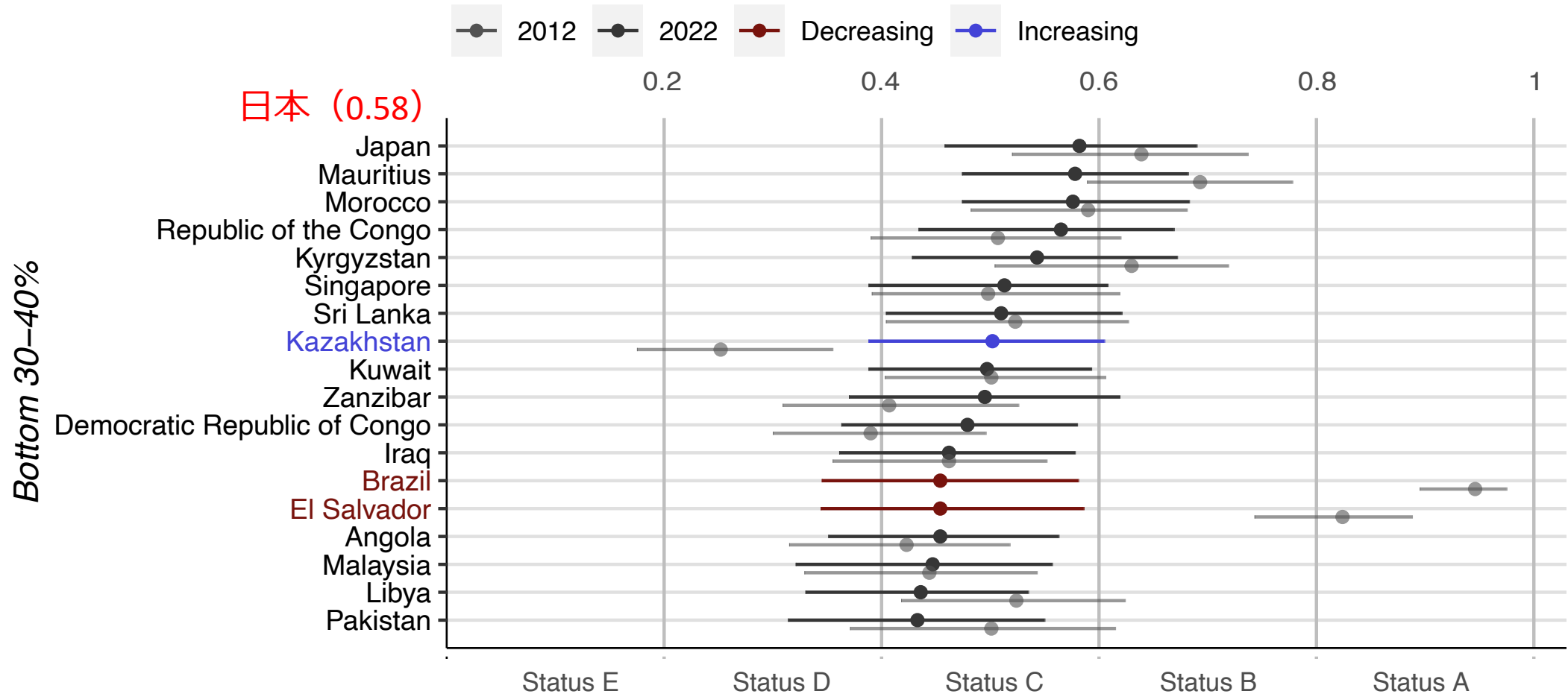


Figure 1: The state of academic freedom in 2022 (0–1, low to high)

<https://academic-freedom-index.net>

参考：AFI2023年版における日本の位置



東アジアでは韓国（0.87）、台湾（0.84）よりは下
アジアだとキルギスタン（0.54）、シンガポール（0.51）が比較的近い位置

<https://academic-freedom-index.net>

参考：「学問の自由度指数」の構成

エアランゲン-ニュルンベルク政治学研究所とヨーテボリ大学の多様性民主主義 (V-Dem) 研究所によって作成

五つの指標 (下記) およびそれを補完する総合指数

- **研究・教育の自由 (0~4)** **日本：2.42**
研究テーマ選択、カリキュラム設定に外部からの干渉がないか
- **学術的交流と普及の自由 0~4** **日本：2.69**
研究者が発見をどのくらい自由に発信・交流出来るか
- **【大学等の】組織自治 (0~4)** **日本：1.73**
大学はどの程度自治ができていますか
- **キャンパスの安全・公正さ (0~4)** **日本：2.54**
キャンパスがどの程度政治的な監視やセキュリティ侵害から免れているか
- **学術的・文化的表現の自由 (0~4)** **日本：3.25**
政治的な話題について学術・文化的表現ができるか

- 2022年には180カ国 (全人口の50%)
- 2197人の識者が評価に参加
- 将来的には大学間協力の「信用」査定に関わるかもしれない